

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372500704		
法人名	社会福祉法人 不動産		
事業所名	グループホーム おとぎの国		
所在地	熊本県山鹿市鹿本町津袋585		
自己評価作成日	平成25年10月25日	評価結果市町村報告日	平成25年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市北区四方寄町426-4
訪問調査日	平成25年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームでのケア(生活支援)は、おとぎの国の理念に沿って、一人ひとりのペースに合わせて、時間を掛けて提供している。機能的に優れ、明るく開放感のある建物の造りや屋間の自由な面会時間・利用者皆様の表情等に、安心と安堵感を強く感じられる家族が多く、スタッフに限らず利用者の家族も、高齢(認知症の高齢者)になったら私もここにお世話したいとありがたい話をされている。又、近所への散歩・地元の子供会や運動会等での交流の他、法人主催の夏祭りやバラ祭り地域交流伝承事業-GH運営推進会議の皆様等を通じて、知人や地域の皆さんとのつながりがこの数年格段に広がってきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の総合福祉施設の一つであるホームは、手入れの行き届いた中庭や吹き抜け天井からの自然光が入り、明るく開放的な雰囲気である。ホームの周辺には無花果やぶどう等の実の生る木が植えられ季節感と収穫の楽しみを味わうことができる。法人主催のイベント開催で地域との交流は継続しており、地域住民への認知症やホーム理解の啓発につながっている。また、ホーム独自でも季節ごとの花見や茶摘み等、外出の機会を多くもっており、屋外での活動等は、入居者の生活にメリハリをつけ、潜在能力の維持を支援する良い機会となっている。今年101歳になられた方も完食される職員の手づくりによる食事は入居者も喜ばれ元気の源になっている。またホーム内を自主的に歩行訓練をされる方も思い思いに自由に過ごされるよう支援している。職員は資格取得などスキルアップのための目標をもち、法人のバックアップ体制も構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフはグループホームの理念と地域密着型サービス(職員憲章等)の意義を理解しており、利用者一人ひとりの状況とペースに合わせ、理念とプランに沿ったサービスを提供している。	法人理念をもとにホームでは職員の思いを解して「私達が目指す家」を作成している。玄関や食堂に掲示し、訪問者にも理解してもらうようにしている。入職時に説明し、会議等でも振り返りを行っている。ホーム理念、法人理念、職員憲章や基本方針を運営推進会議の資料に掲載し啓発している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供会や運動会での交流の他、外出先では馴染みの方や子供達が声を掛け協力してくれる。又、法人主催の夏祭りやバラ祭り等を通じての知人や地域の皆さんとの交流は、この数年格段の拡がりを見せている。	法人主催のイベントに地域の方が参加したり地区の運動会の見学に行くなど交流を図っている。買物に出かけた時に挨拶や会話を積極的に行い、近隣の方から植木等を頂いたりしている。地域の子供会の訪問は定例化しており地域との交流は年々活発になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆さんの認知症等に対する相談にも応じており、ホームの施設だよりを地域(地元)の3地区)にも開放し、回覧も数年前より行ってきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元の運動会や祭りへの参加は、数年前の、この会議での話し合いから生まれており、事業計画や外部評価内容等も報告し意見を求めている。	偶数月に開催し、入居者の状況報告、行事・活動状況等の紹介をし、意見交換や質疑応答を行っている。不明な点は次回開催までに回答できるよう包括支援センター担当者の協力も頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎年、市主催の行事や講座に参加しており、運営推進会議へは、毎回地域包括支援センターからの出席があっている。市の担当者や市社協のケアマネージャーの訪問もあり、情報交換等を行いながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当職員とは日頃より行事や講座に参加したり、情報交換や相談をしながら協力体制の構築に取り組んでいる。また地域包括センターの職員が運営推進会議のメンバーとして出席しており、日頃から様々な情報や連絡を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が十分に理解している。又、研修や学習会にも参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は研修や会議での振り返りにより、身体拘束の弊害を理解しており、拘束のないケアを実践している。言葉による拘束もしていない。車椅子使用の際にも入居者の意思を確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はありません。職員会議でも勉強会を行い、虐待ゼロに向け全員で取り組んできている。		

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居されていた利用者がこの制度を活用されており、研修会でも学んできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者と家族の方に、十分に説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関先や法人施設にも投書箱を設置し、寄せられた意見や要望等は真摯に受け止め、改善等に取り組む体制を整えている。	面会時や電話での連絡の際に意見や要望を言いやすい雰囲気づくりを心がけたり、引き出す工夫を行っている。3ヶ月に1回、ホームでの暮らしぶりや健康状態について写真掲載の便りで家族に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームでの会議や打ち合わせには、自由に意見を出し合える雰囲気と時間がある。GHの理念は、当時のスタッフ全員の意見から生まれており、行事や環境・ケアプラン等の改善に活用し反映している。	ホーム長及び管理者は日頃より職員間のコミュニケーションを大切にしており、業務中や、会議などで要望や意見を把握するようにしている。解決に向けて早急に取り組む体制はできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場であり、職員の資格取得支援体制も充実している。更に、年2回の自己評価や外部評価等に取り組むことで、自己分析と共に、職場環境や意識を改革し、向上させて行くことが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、法人での施設内研修会(事例研修発表会)を実施しており、今年は、外部講師を招いて認知症等の勉強会も行ってきた。県や市主催の研修会やグループホームのブロック研修会等にも参加し、能力アップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地区のグループホーム等と定期的に交流し勉強会を行ってきた。又、問題点や取り組みの方法等お互いに学びながら、サービス向上に向け取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では、特に注意し、時間をかけて、対話や状態観察を行ってきている。又、本人が不安にならないようにと雰囲気や環境に配慮し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当初に限らず、その後の面会時にも家族等と相談する機会を設け、要望等を聞き、安心されるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居日やその前後に、本人や家族・担当ケアマネージャー等より情報を得、相談しながら、必要なサービス等を取り入れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	取り入れるサービスが自立支援であることを念頭に置きながら、以前からの生活や本人が得意とされていたことを聞き、教わったりしながら、関係を築いていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に(年4回)写真入りの便りを発送し、面会時にも近況報告等を行い対話に努めている。又、知人宅訪問やお墓参り・病院受診などは出来るかぎり家族支援でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の地域の知人(今年は、同級生の友人(6人)一同での訪問や以前隣りに住んでいた方の面会等がある。)や老人会(志々岐と藤井地区からは定期的に…)の方、ケアマネージャー等の訪問があり、これらの方には再度の訪問をお願いし、家族にも伝えている。	馴染みの美容室やお墓参り等は家族の協力を得ながら支援している。地区の方や友人が訪問された際には歓待し、継続して来ていただくようお願いしている。自宅を訪問したい希望がある場合は、外出する機会がある時にまわり道になっても家の前を通るようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	多少は相性や好みの差がでるが、生活や行動を共にすることで、助け合いや共有の関係が出来ており、支援にも努めている。		

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当方からは、前入居者の方を訪ねており、必要に応じては当時の経過等を説明している。又、退所された方や家族が来荘される時もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの奥にある思いや希望する暮らし方などの把握に努め、本人の意向(困難な場合には家族としての思い等)を第一に考え支援している。	日頃の会話や外出時のリラックスしている時に要望や意向、不満などを引き出すよう工夫している。困難な方は表情や反応からも把握するようにしている。把握した内容は記録し、職員間で共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人、前担当ケアマネージャー等からの情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との対話やスタッフ間での確認・観察記録等での情報により、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望をくみ取りながらも、利用者の残存機能をどう活用していくか、どう向き合い何を大切に取り組んでいくか等を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	入居者や家族の意向をもとに計画作成担当者が中心となり、職員の意見を取り入れながら計画を作成している。毎月の会議の際にモニタリングを実施し、定期的にサービス担当者会議を開催し計画の見直しを行っている。作成した介護計画は家族にも説明している。	計画にそった記録の書き方や計画の作成などチームケアにおける職員のスキルアップを図るための勉強会も期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受診や目立った変化等がある場合には、個人日誌の赤枠の部分に書き加えるなど、本人の体調・状態の変化に応じた対応を行い、プランの見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人全体の施設には、多種多様なケアサービス体制が出来ており、それらを活用し、その時々生まれるニーズに対応して、生きがいや喜びを感じられる様な柔軟な支援ができるように取り組んできている。		

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援できている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関で適切な医療を受けられるように関係を築いており、情報も提供している。	入居後、内科はほとんどの方が近くの協力医療機関をかかりつけ医に決められている。眼科や他科に関しては家族による通院介助を基本としている。受診前・後の情報は家族と相互に報告し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の個々の体調や状態の変化に応じて、適切な受診や看護支援が受けられるよう協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態変化や状況に応じて、早期の対応が出来るよう医療機関との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームへの入居時より相談し、重度化された場合のことも話し合ってきている。「終末期も、できればここでお願いしたい……。」と希望される家族もある。	重度化や終末期に関しては入居時にホームのできること、できないことを説明している。重度化した時には家族の意思の確認をし、家族・かかりつけ医・関係者を含めて話し合いをし、希望される支援を行うようにしている。法人施設との連携体制も整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当は職員全員が行えるよう勉強会を行ってきている。又、隣接の法人施設にはAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、消防署立ち会いでグループホーム単体での避難訓練を行い、その時には、隣り近所にも協力依頼の声かけを行っている。又、法人全体で開催される消防署立ち会いでの避難訓練にも参加し、地元消防団との協力体制の他、運営推進会議でも災害時の対応や協力体制等について検討を行ってきている。	消防署立ち会の夜間想定避難訓練を入居者も参加して行っている。法人と連携を図るため合同の避難訓練や緊急連絡網の通報訓練も行っている。近隣の住民にも協力を依頼している。	昼間想定非難訓練の実施や様々な災害を想定したシュミレーションの確認を継続的に取り組まれる事も期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳とプライバシーの保護は施設の方針でもあり、一人ひとりの性格等に配慮した言葉かけや寄り添うケアを心掛けている。	入居者の人格を尊重した言葉かけやプライバシーに配慮した対応を心がけている。目線を同じくし、耳で優しくゆっくりとした声のトーンで会話するように努めている。プライバシー保護に関する勉強会も実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会や特別な日には本人の希望メニューを準備し、日々の暮らしやショッピング、外出時等にも、本人の思い(判断)で決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や朝食は希望される時間帯であり、起床と就寝にも時間の幅を持たせており、行事のない昼間は、各々が思い思いのペースで過ごされる日が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、行きつけの美容室に行かれたり、訪問美容(理容)を利用されたりしている。又、特別な日や外出時の化粧や服装も相談しながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューやおやつ等、相談しながら決めているし、準備や片付けなどを一緒に行き、食事と一緒にしている。又、誕生会や特別な日には、本人好みの料理を聞き、メニューに取り入れている。	入居者の好みや季節感を取り入れ、献立をたてている。スタッフに管理栄養士がおり助言を受けている。食材の買い物、下拵えや配膳、下膳、片づけ等を一緒に行っている。自家菜園で採れた野菜が食卓に上ることもある。職員も入居者の傍らで介助しながら同じ食事を摂っている。誕生日には手づくりケーキと本人の好きな料理をメニューに取り入れお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスを受け、栄養バランスや水分量に注意しながら行っている。又、季節感のある食材を取り入れ、食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時の洗顔とうがい、食後の歯磨きとうがい、就寝前の入れ歯洗浄を行っている。スーパーソフト水を使用し、口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンに合わせ、早めの声かけと誘導、介助を行っている。全員の方が、昼間は、トイレでの排泄を維持されている。	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、時間やしぐさを察知して声かけ誘導を行っている。昼間は全員がトイレで排泄されており、夜間はポータブル・リハパンツ・パットなどを使い分け自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を使った料理と十分な水分補給・日中の運動等で、便秘予防・自然排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望によりいつでも気持ちよく入浴出来るように支援している。入浴中及びその前後には、見守り・安全確認に注意を払っている。	入居者の希望に応じて気持ちよく入浴してもらうように支援している。拒否の方には無理強いはず、時間をおいて誘導したり、声かけに工夫している。汚染の場合など状況に応じてシャワー浴や清拭など個別に対応し清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立支援と各々の生活習慣が基本であるが、昼間の運動や入浴・活動的に過ごすこと等で夜間安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況を書面で記録しており、効能や副作用等についても話し合い理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの得意分野があり、それを活用し、日々の生活の中で張りのある毎日を送られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の外出や祭り等の見学、古里訪問、散歩、茶話会などを行ってきており、ホームの周辺にはバラ園や菜園など散歩や外気浴に適した場所が多い。又、古里訪問や知人宅訪問などは家族の支援でもお願いしている。	日常的にはバラ園や自家菜園への散歩、外回りの清掃など外気を感じる支援を行っている。季節毎に法人の行事や地域行事へ出かけたり、ホーム独自でドライブや買い物など外出の機会を多く企画している。	

グループホーム おとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングや外食時等には、各々での支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物等へのお礼の他、本人の要望あれば、電話をかけ家族等と話をされる。又、年賀状を毎年出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が吹き抜けで、二カ所のリビング(居間と食堂)がガラス越しに眺められる。光の庭や玄関の周りは、各々が一つの庭園であり、自然の光や季節の草花を楽しみながら過ごせるようになっている。	自然光を充分取り入れることができる建物の構造で、高窓には四季を描いたカーテンが取り付けられてあり入所者や訪問者を楽しませている。玄関やホーム周辺には季節の草花や実がなる木々があり季節を感じることが出来る。換気や室温などに配慮し、スーパーソフト水を使用し、清潔保持や除菌に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気や気候に応じて、玄関横のベンチなどで外気浴をしたり、居間のソファや食堂で、気の合った人々と思い思いに過ごしたりもされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの部屋が本人と家族の設定であり、使い慣れた家具の他、仏壇や鏡台・テレビ等を持ち込まれている居室もある。面会時等にはお茶を飲んだり、アルバムを見たりして過ごされることが多い。	本人の馴染みの箆笥や鏡台、テーブル、椅子、テレビなどの持ち込みがあり、入居前の習慣や過ごしやすいレイアウトを家族にお願いしている。室温は職員が管理し、快適に過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーの構造で、見通しもよく、各々の行動や居場所も確認しやすい。歩行器を見つけ運動される人や空いている居間のソファで談話したり休息される人々もいる。		

目標達成計画

作成日：平成 25年 12月 19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	消防署立ち会いのグループホーム単体での夜間想定避難訓練を入居者も参加して行い、近隣の住民にも協力を依頼している。又、法人と連携を図るため合同の避難訓練や緊急連絡網の通報訓練も行っている。 しかし、現時点(H25年11月)、昼間想定避難訓練の実施までには至っていない。	昼間想定避難訓練の実施や様々な災害を想定したシミュレーションの確認を継続的に行っていく。	①通念、入居者も参加し夜間想定避難訓練を行ってきたが、本年度は昼間想定避難訓練を実施する。 ②火災時の通報と避難方法、水害・土砂災害時の通報や避難方法は、各々、マニュアルを作成し訓練を行っているが、今後も様々な災害を想定し検討を行っていく。	4ヶ月
2	26	介護計画は、入居者や家族の意向をもとに計画作成担当者が中心となり、職員の意見も取り入れながら作成している。毎月の会議の際にモニタリングを実施し、定期的に見直し等を行い、現状に即した計画である。が、研修や勉強会を行いチームケアにおける職員のスキルアップを図っていきたい。	チームケアにおける職員のスキルアップを図るための勉強会を行っていく。	①各担当者(各職員)での介護計画の作成。 ②より計画にそった記録の書き方。 ③チームケアとは……。 上記の他、スキルアップを図るための研修や勉強会を継続し行っていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。